



# 大正・昭和期の文学における思想

[キーワード: 近代の超克、〈日本的なもの〉、徳島ゆかりの文学]

准教授 河田和子

## 〈研究の概要〉

大正・昭和期の文学(1920年代から40年代)を中心に同時代の思想との関わりについて検討を行っている。特に小説家の横光利一や文芸評論家の保田與重郎、さらにその周縁の文学者における近代主義批判、所謂〈近代の超克〉の問題機制と〈日本的なもの〉とのつながりについて考察を行っている。

日本研究家のラフカディオ・ハーン(小泉八雲)やポール・ヴァレリーなど西洋の文学者・思想家、また西田幾多郎や和辻哲郎、田辺元など京都学派の哲学者らが日本の文学者に与えた影響についても検討している。近年は、大正期の作家として佐藤春夫や芥川龍之介の文学にも遡行して考察を進めている。

日本近代文学において〈日本的なもの〉、近代化の問題ともに伝統の問題がどう認識され、描かれたかについて検討しており、そこから派生した問題として、近代文学における故郷・地方の問題についても考えている。徳島ゆかりの文学についても研究を行っており、ポルトガル人の文筆家で徳島に移り住んだヴェンセスラウ・デ・モラエスの著作が日本の文学者に与えた影響についても調査している。

また、横光利一の小説をはじめとして、モダニズム文学における近代科学の影響、文学と近代科学の交錯する諸問題に関しても考察を行っている。

## 〈主要研究業績〉

- ・河田和子(2009年)『戦時下の文学における〈日本的なもの〉—横光利一と保田與重郎—』花書院
- ・奥山文幸編(2017年)『蓮田善明論 戦時下の国文学者と〈知〉の行方』翰林書房 収録  
河田和子「蓮田善明における〈おほやけ〉の精神と宣長学の哲学的発見—昭和10年前後の日本文芸学と京都学派の関わり—」162頁～198頁
- ・河田和子(2017)「芥川龍之介「神神の微笑」と大正期の文化意識—欧州大戦以降の〈日本的なもの〉の表象—」『九大日文』第30号、九州大学日本語学会、34頁～47頁
- ・河田和子(2016)「横光利一のヨーロッパ認識と〈スペイン動乱〉の影響」『横光利一研究』第14号、横光利一文学会、15頁～31頁
- ・河田和子(2010)「〈上海もの〉と五・三〇事件—横光利一の『上海』とその周縁—」『横光利一研究』第8号、横光利一文学会、1頁～13頁

専門分野 : 日本近現代文学

E-mail: kawada.kazuko@tokushima-u.ac.jp

詳細情報 <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/364595/profile-ja.html>